

NIPPON SCOUT JAMBOREE NEWS

CHALLENGE!

Vol.4



出合いが、 世界を広げる

ジャンボリーが始まって数日。最初は緊張していた会話も、今では笑顔に変わり、言葉を越えた交流があちこちで生まれています。新しい友達、新しい挑戦、新しい発見。その一つひとつが、ここでしか得られない大切な経験です。

Expand Your World.



そなえよつねに
ボーイスカウト



心が動く、その瞬間へ。 DISCOVER MORE!

昨日から本格的なプログラムが始まりました。自然の中で新しいことに挑戦し、仲間と力を合わせ、世界中のスカウトと交流する。そして、平和について学び、未来への思いを深める。この時間も、このジャンボリーならではの大切な体験です。
まだまだ知らない自分に出会えるチャンスが、きっとたくさん待っています。

中国地方最高峰へ挑む！ 大山登山で見せた絆と達成感

地域プログラムで、標高1,709mを誇る中国地方最高峰・大山にスカウトたちが1泊2日で挑みました。往復約6時間の道のりは険しく、最初はカメラに向かって笑顔でピースサインを見せていたスカウトたちも、急な坂や岩場が続くにつれ、次第に疲労で表情が曇っていききました。一人が登りきれなくなったため班全員で下山を判断する場面もあり、過酷なプログラムはまさに挑戦！
しかし、その過酷さの中にこそ、スカウトたちの強い

絆が光りました。「もうちょっと行ったら休憩できるよ、頑張ろう」といった励ましの声が絶えず飛び交います。山頂で絶景を目にしたスカウトたちの顔には最高の笑顔が弾けました。
また、下山中には足をひねってしまった仲間を班員が肩を貸して支え、別のスカウトがその仲間の重い荷物を代わりに背負って共に歩き抜く姿も見えました。
自分との戦いを制し、仲間と支え合ったこの2日間は、スカウトにとってかけがえのないものとなりました。





広島ピースプログラム ～2日目～

広島ピースプログラム2日目は、全国47都道府県と、オーストラリア・カナダ・台湾・イタリア・韓国・アメリカ・イギリスの代表スカウトが、平和記念式典に参加しました。内閣総理大臣や広島県知事のあいさつでは、核廃絶を日本や広島から訴えていく強い決意が語られました。また、平和宣言の一文に「価値観の異なる人々との国境を超えた交流を深めてください。そうすることで、嬉しさや楽しさ、夢や希望を共有することができます。」という、ジャンボリーを指しているのではないかというくらい言葉がありました。平和について、考え、意見しあい、共に進んでいく。そんなことを考える日、みなさんはどう過ごしましたか？



大型遊具 笑顔あふれる パイオニアリング

信仰奨励会場ではパイオニアリングプログラムが実施されました。角縛りなどのロープワークを駆使し、ブランコや投石器、木製のメリーゴーラウンドなどの大型構築物を作り、自分たちで遊ぶことができました。スカウトたちは仲間と声を掛け合いながら順番に挑戦し、笑顔が会場いっぱいに広がりました。遊具を通してパイオニアリングの技術や安全な活動の重要性、協力して一つのものを作り上げる喜びを実感する機会となりました。



平和への祈り

8月6日8時15分、広島市内で平和記念式典が行われていたころ、スカイラインサブキャンプ内にある大分第1隊のサイトでは朝礼の際に黙祷が行われました。上級班長の合図でスカウトたちは帽子を取り、目を閉じました。黙祷をしたスカウトは「広島に原爆が落とされた時に悲しい想いをした人がたくさんいる。なのでもう2度と戦争をしないという想いを込めて黙祷をしました。」と話していました。また6日は各地のサイトで黙祷や国旗掲揚時に半旗にする様子が見られるなど、ジャンボリー会場からも平和への祈りが捧げられました。



カブトガニの謎と未来のエネルギーに驚きの連続！

岡山県笠岡市での地域プログラム「笠岡市で未来の地球環境を考える～カブトガニとバイオ発電～」に参加したスカウトたちは、生命の神秘と最新技術の双方から、地球の未来について学びました。市立カブトガニ博物館では、県立笠岡高等学校の生徒たちがガイド役となり、スカウト達を案内しました。最初は緊張気味だったスカウトたちも、「カブトガニはひっくり返って泳ぐ」「4年に1回しか動かない」といった意外な生態を知るたびに、会場には驚きの声が上がりました。高校生との世代を超えた交流を通し、貴重な生物の生態に触れました。午後から訪れた「かぶとバイオファーム発電所」でも、驚きは続きます。牛ふんからバイオガスを取り出す先進的な仕組みを学ぶ中で、スカウトたちが最も驚いたのはその効率性と水質でした。この広い施設を、たった3人で回している、最後に残った処理水は飲めるほど



きれい、という話を聞き、質問が止まりませんでした。干拓による環境の変化という歴史を学び、最新の資源循環技術を目の当たりにしたスカウトたち。自然保護と産業発展の両立という大きなテーマに対し、自分たちに何ができるかを深く考える、実り多き一日となりました。



JAMBOREE IN PICTURES

Together, We Grow.

仲間とだから、成長できる。





スカウト通信員が活躍中！

今日も、約20人のスカウト通信員が会場内を取材してくれました。毎日通ってきてくれるスカウトもあり、取材時の質問内容や写真の撮り方を一生懸命考えてくれている姿に、広報部一同うれしく思います！それぞれの目線で見たジャンボリーの記事を紹介します。



田中聡采子 宮地優奈 スカウト通信員(三重県)

ジャンボリーではバッチ交換が活発に行われています。チーフやリングを交換してその場で付けていたりしました。また、チーフやリングはどこで買ったのかなど話しかけるきっかけにもなっていました。ちなみに交換グッズは隊長からももらったり、作ったりしていているそうです。ロープを作ったキーホルダー、水引のチーフリング等BSで得た経験を使って作っている人もいました。交換している場所はキャンプサイトに訪れる、歩いているときに、休憩しているときに、買い物で並んでいるとき等いつでも時間があれば交換しています。ワッペン交換だけではとどまらず、一緒にバレーボールをしたり、交流会をしていました。このように本来は顔も知らない他人であった人々がジャンボリーという機会を得て、他人から友人へと変化していくスカウト活動が起こっていました。

石野匠馬 スカウト通信員(東京都)

私たちはNATUREのキャンプサイトのゲートについて取材しました。ゲートにはそのサイトの様子だったりその地域によって、様々な特徴がありました。ゲートは1週間自立させなければならないのでみんなが一生懸命に作っていました。私たちが所属する隊のゲートでは自分たちの隊の自然の豊かさを表していました。外国の隊も自分たちのゲートを作って生活していました。韓国語はわかりませんでしたが、国旗があることによって、どの隊かがわかりやすかったです。わかりやすく多くの人に見てもらう場合には、派手で目立ちやすいことが大切だと感じました。作っているときは大変そうでしたが、実際に立った時にはみんな達成感と喜びであふれていました。年齢や国境の差を超えて協力をするということはジャンボリーの第一歩です。



池田陽世里 スカウト通信員(福島県)

8月6日の午後、わし座エリアでは、福島第一隊のベンチャースカウトたちがリフトアップのプログラムに挑戦していました。最初は少し緊張感のある表情が伺えたものの、ストップウォッチが動き出した瞬間、スカウトたちの目に期待と意欲の光が灯りました。積み重ねてきた技能とコミュニケーションを武器に見事に完成させて好記録を残すことができ、班員からは「班員数が多いなかでもそれぞれの能力に合わせた役割分担が出来た」「初めての3本の木の結索でも協力して行えた」など、「挑戦」への達成感を感じている声が多く寄せられました。始まったばかりのジャンボリー、「プログラムで1位を取りたい!」「海外のスカウトと交流を深めたい!」まだまだスカウトたちの挑戦は終わりません。



藤井瑚太郎 スカウト通信員(岐阜県)

岐阜県連盟リーダー達によると、現在、全国的に熊被害が増加しているのに対し、「麻酔吹き矢」を打つことができるのが、日本に1人しかいないそうだ。原因は、打つ技術が難しいこと、熊に近づかないとあてられないこと、麻酔を扱うため、医師免許が必要なことの3つだ。ならば、銃でいいのではないかと、思うかもしれない。しかし、銃は近くに人がいると撃つことが難しく、無間矢鱈に撃つことができないからだ。このような現状を知り、そして変えていくためにも、ぜひこの吹き矢体験をしてほしい。少し話が重いと、敬遠する人も、この体験のあと、私達は何もできない、と思う人も多いだろう。しかし、体験自体は仲間と当たった数を競い合ったりでき、どれも楽しい。また、僕達は知っているだけで大きな武器になることを知っている。っていうか行け!!



本日のスカウト川柳

ジャンボリー 残り三日 楽しもう! 伊藤寧々(大阪府)
虫よけを したのに刺され 俺だけか 岡本理玖・藤田陽真(大阪府)
夏の夜 地の星座なる テント灯 岐阜第1隊ご班(岐阜県)
歓喜舞う 旅のきせき(奇跡・軌跡)に 導かれ ... 池田陽世里(福島県)

スカウト通信員には、スカウトなら誰でも予約不要で参加できます。1人でも、班単位でも、ちょっと興味があるという人も大歓迎!皆さんの参加をお待ちしています。そして、記事とあわせて「スカウト川柳」も募集中です!ジャンボリーの最後にはMVPが決まる...かも!?力作、珍作、どしどしご応募ください。

BMX日本代表姉妹、世界大会よりもジャンボリーへ被災地熊本からスタッフ参加の祖母と会場で対面

ジャンボリー会場では、様々な「出会い」や「再開」があります。6日には、金沢第21団ボーイ隊の稗田花子さんと夏子さんの姉妹が、熊本からスタッフ参加した78歳の祖母と、ジャンボリーで再会しました。

稗田姉妹は、BMXやスノーボードクロスで活躍する実力者で、今夏の世界大会で日本代表に選出されました。でも「ジャボリーは今年だけ」と神石高原に。二人の参加目的は、熊本県連からスタッフ参加する祖母の西村洋子さんと会場で会うことでした。

西村さんは7月28日の熊本地震で被災し、一時は参加をあきらめかけました。二人からテレビ電話で「ばあちゃん、来てよ」と呼びかけられ、姉妹の母が八代市に駆けつけて片付けを受け、団委員長を務める夫も参加を後押し。姉妹は「地震があったので、ジャンボリーで会えてめっちゃ嬉しい。安心した」と語っていました。



JAMBOREE VOICE

ボイス

「やってみよう!」と思って一歩踏み出したその瞬間から、新しい挑戦が始まります。
小さなチャレンジも、大きなチャレンジ也大歓迎!
あなたの「Challenge!」を聞かせてください。

ホワイトボードを
持った取材班を
見つけたら、
ぜひ参加を!!

今回のテーマ: 「新しい友達」



明日取材の(8/9 発行予定)ボイステーマ「私のいちばん!」

BEHIND THE SCENES

ジャンボリーを支える 運営スタッフのお仕事 売店部

限定グッズや日用品、地元の名産品が並ぶ売店エリアを運営しています。買い物が楽しくなるような「まちの商店街」をプロデュース。みんなが笑顔で思い出の品を見つけられるよう、元気にお迎えします!



神石高原での思い出を
いつまでも残すため、
売店で待ってます。是非、お越しください。



売店部長
青木 教至さん



仲良く健やかに過ご
してください!

総務部

ジャンボリーの「司令塔」として、本部の運営や海外派遣団の受付、救護所の管理などを担当しています。みんなが安心して過ごせるよう、全体をコントロールしながら支える、まさに縁の下の力持ちです!



総務部長
長谷川 榮一さん

JAMBOREE LIFE Vol.4

グッズ交換で 友達の輪を広げよう!

Trade, Connect, Remember

全国のスカウトとの出会い、そして世界のスカウトとの交流
グッズ交換は笑顔と友達を増やす魔法です!



コラム

海外スカウトとも 交換してみよう!



ジャンボリーには、世界各国から
スカウトが参加しています。
英語が得意でなくても大丈夫!
“Hi! Trade?” たったの一言で、
笑顔が返ってくるがたくさんあります。
交換したグッズはもちろん、
その時に交わした言葉や笑顔も
一生の思い出になります!

1 気になるけど...



2 勇気を出して!



3 会話が広がる!



4 「また会おう!」



グッズ交換は、スカウトみんなの架け橋!
今日も新しい出会いを楽しもう!

グッズ交換を楽しむポイント!

- 見えるところにつけよう!
ワッペンやピンバッジは
バッグなど見えるところに
- 笑顔でひと言!
「こんにちは!」「Trade?」
などシンプルな言葉でOK!
- 「ありがとう!」を忘れずに
交換したら、笑顔で「Thank you!」
「ありがとう!」と伝えよう
- 断られてもOK!
相手が持っていない時もあるよ。
笑顔で次にチャレンジ!

令和8年熊本地震 被災地へ、私たちにできることを。

令和8年熊本地震の被災地を支援するため、第19回日本スカウトジャンボリーでは募金活動を実施します。地域プログラムでの街頭募金や会場内の募金箱を通じて、被災地へ支援を届けます。



走る力を、支える力に。

ベンチャープロジェクトでは、しまなみ海道サイクリングを実施するとともに、熊本震災で被災された方々を支援するための募金活動を行いました。参加者や地域の皆様から温かいご協力をいただき、多くの善意が寄せられました。今回の活動を通して、サイクリングを楽しむだけでなく、被災地への支援や社会貢献の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

8/6(木)
募金総額

196,781円

みなさんのご協力を
よろしくお願いします

【訂正とお詫び】

『challenge!』vol.2 P7掲載の「神石高原町のお土産物販売おすすめ商品!」の記事において、缶バッジの販売価格に誤りがありました。

正:缶バッジ(大)300円 (中)各200円 (小)売り切れ
お詫びして訂正いたします。



缶バッジ(大)300円 缶バッジ(中)各200円

DISCOVER JINSEKIKOGEN

ジャンボリーの舞台・神石高原町には、豊かな自然やおいしい特産品、地域の人たちが大切に受け継いできた文化など、たくさんの魅力があります。このコーナーでは、毎号ひとつずつ神石高原の「宝もの」を紹介します。

こんにやく 生で食べるのはもちろん、 煮物や田楽にしても絶品。

神石高原町は古くからこんにやく芋の栽培が行われてきた、知人ぞ知る名産地です。寒暖差のある澄んだ空気と綺麗な水でつくられる手打ちこんにやくは、歯ごたえのある独特の弾力と、味がしっかりと染み込む特徴を持っています。刺身こんにやくとして生で食べるのはもちろん、煮物や田楽にしても絶品。町には「こんにやく仙人」という観光キャラクターもいるほど地域に親しまれており、健康的で食物繊維たっぷりの伝統の味を体験できます。

第26回 世界スカウト ジャンボリーの パネルを持って 撮影しよう!



広報部のカメラマンが26WSJのパネルを持って会場を取材しています。ぜひ撮影にご協力ください。撮った写真はボーイスカウト日本連盟の公式SNSなどで使用します。



安全・警備部 からのお願い

みんなで守ろう、 安全なジャンボリー

たくさんの仲間が集まるジャンボリーでは、安全もみんなで作る大切な活動の一つです。一人一人がルールを守ること、自分だけでなく仲間の命も守ることにつながります。「少しくらい大丈夫」ではなく、「みんなで守ろう」という気持ちで、安全な会場づくりを進めていきましょう。

ジャンボリー会場では、資材や食料の運搬、緊急車両の通行など、多くの車両が行き来します。そのため、会場中央の車道はスカウトが歩いたり横切ったりすることはできません。車道を渡るときは、必ず指定された横断場所を利用してください。遠回りに感じるがあっても、それが事故を防ぐための大切な約束です。

また、横断するときは周囲をよく確認し、隊や班の仲間とも声を掛け合って安全を確かめましょう。安全係を中心に「危ないかもしれない」と考える習慣をもち、お互いに気付いたことを伝え合える雰囲気をつくることも大切です。一人がルールを守れば、その姿は仲間にも広がります。全員で安全への意識を高め、笑顔で活動し、「来てよかった」と思えるジャンボリーをみんなの力でつくっていきましょう。



中央救護所 からのお知らせ

▶今、増えているのは...

熱中症・脱水症、ブユによる虫 刺されが急増しています!!

熱中症・脱水症...十分な水分を摂る、プログラムに出かける際は十分な量を持参のうえ出かけましょう。
ブユ被害...露出を避ける服装、防虫対策し、特に足元の露出に気をつけましょう。

特に明日は ジャンボリー大集会が控えています

知らず知らず疲労やのどの渇きに気づきにくくなっています。夜間は十分な睡眠を心がけましょう。

2026年8月7日(金) 神石高原町の天気・気温

8/8(土) 8/9(日) 8/10(月) 8/11(火) 8/12(水) 8/13(木)

32 30 30 31 31 31

最高気温(°C)

22 20 19 18 18 19

最低気温(°C)

weather map

高

台13

台15

予想 8月 8日 9時

気象予報士

さんちゃんのお天気メモ

きのうもきょうも、南寄りの風がでましたね。日中の暑さも少しは変わりましたが、それでも日差しは毎日厳しいですね。台風は沖縄直撃コースになってしまいました。その影響もあって神石高原では晴れて暑い日が続いています。このまま行けば、閉会式まで「雨なし」のジャンボリーになるかも……です！

協賛企業

Platinum Sponsor

世界が進むチカラになる。

Gold Sponsor

Silver Sponsor

Bronze Sponsor

Official Supplier

株式会社ウェザーマップ／オタフクホールディングス株式会社／株式会社森岡商店

第19回日本スカウトジャンボリーは、2026年度日本万国博覧会記念基金の助成事業として実施いたします

ジャンボリー新聞 発行：第19回日本スカウトジャンボリー広報部 印刷製本：中国新聞印刷株式会社

8